

## 石見神楽保存・伝承拠点基本構想（案）

令和      年      月



## 目 次

|                                        |    |
|----------------------------------------|----|
| <b>1. 基本構想策定の趣旨</b> .....              | 1  |
| (1) 浜田市における石見神楽の位置づけ .....             | 1  |
| (2) 石見神楽の保存・伝承に関する現状と課題、今後の取組の方向性..... | 2  |
| (3) 本基本構想の位置づけ .....                   | 4  |
| <b>2. 保存・伝承拠点のあり方</b> .....            | 5  |
| (1) 保存・伝承拠点のミッション（使命・意義） .....         | 5  |
| (2) 保存・伝承拠点のビジョン・コンセプト（目指す姿） .....     | 7  |
| (3) 保存・伝承拠点に必要な機能.....                 | 8  |
| (4) 各機能の活用 .....                       | 9  |
| <b>3. 拠点施設の構成及び管理運営方針</b> .....        | 20 |
| (1) 施設ゾーニング .....                      | 20 |
| (2) 管理運営の基本方針 .....                    | 23 |
| (3) 運営方式 .....                         | 23 |
| (4) 運営体制 .....                         | 24 |
| <b>4. 今後の展望</b> .....                  | 25 |
| (1) 周辺施設との連携（フィールドミュージアム構想） .....      | 25 |

## 1. 基本構想策定の趣旨

### (1) 浜田市における石見神楽の位置づけ

石見神楽は、日本遺産にも認定されている島根県西部（石見地域）で伝承される神楽をテーマにしたストーリー「神々や鬼たちが躍動する神話の世界～石見地域で伝承される神楽～」の構成文化財にもなっている浜田市が誇る伝統芸能であり、市内には 50 以上の石見神楽団体があります。

また、ここ浜田において、明治以降、改正神楽（八調子神楽）、校定石見神楽台本などの「石見神楽文化」が花開き、石見神楽面、石見神楽蛇胴、石見神楽衣裳などの「ものづくり」が生まれ、様々な地域へと伝わりました。

現在、これら浜田が生み出した石見神楽の文化をひとつも取り入れていない石見神楽はないことから、浜田だけが石見神楽を継承する地域のなかで唯一「石見神楽を創り出したまち」ということができます。

## (2) 石見神楽の保存・伝承に関する現状と課題、今後の取組の方向性

令和6年度、浜田市において石見神楽伝承内容検討専門委員会が設置されました。同委員会において、石見神楽の保存・伝承に向けた現状と課題の整理、及び取組の方向性について議論が行われ、同年11月に「石見神楽の保存・伝承に関する提言書」として取りまとめられました。その趣旨については以下のとおりです。

### ① 現状と課題

#### 1 伝統文化の継承と担い手に関すること

- 祭礼行事の簡素化などに伴う奉納神楽や夜明け舞の減少により、石見神楽の基本である「儀式舞」を舞う機会が減少しており、神職によって舞われていた時代から継承されてきた「伝統的な舞の文化」が今後継承できなくなるおそれがある
- 少子高齢化などによる担い手不足や石見神楽団体の資金減少などにより、今後、舞い手・楽人が減少し、石見神楽団体がなくなる可能性がある
- 石見神楽団体ごとに大切にしている舞や伝統を、どのようにして後世に引き継いでいくのが課題
- 石見神楽団体などの資金減少は、石見神楽関連産業の伝統のものづくりに対しても影響を及ぼし、長期的には石州和紙の技術継承にも関わる

#### 2 石見神楽関連産業に関すること

- 浜田で生まれた、石見神楽の面、蛇胴、衣裳などの石見神楽関連産業やものづくり技術が、石見神楽団体の減少などによる需要の縮小により、経営が厳しくなり、後継者を雇うことも難しくなっている
- 後継者育成支援について検討の必要があるが、雇い側に責任が生じたり、技術流出などの懸念がある
- 全てのものづくりにおいては、先人の努力によって生み出されたデザインなどの模倣品が流通している

#### 3 情報発信や学習機会に関すること

- 「石見神楽を創り出したまち浜田」としての市民の誇りを醸成したり、次世代へ引き継ぐための情報発信が不十分
- 浜田の石見神楽について学べる場所がない
- 観光客（インバウンド含む）に向けては、石見神楽を目的とした浜田市への来訪を促すための情報発信を強化する必要がある

#### **4 資料の保存と調査研究に関すること**

- 歴史的な石見神楽用具や関係資料が市内各地に散逸しており、保存すべき用具などの整理を行う必要がある
- 舞やものづくり技術などに関する調査研究も不十分

#### **5 専門職員の配置に関すること**

- 行政において、知識と経験を有した石見神楽の舞やものづくりに精通し、適切な記録保存や活用などができる専門職員が配置されていない

### **② 今後の取組の方向性（5つの提言）**

#### **1 石見神楽団体（舞、舞い手、楽人）の保存・伝承について**

神職によって舞われていた時代から継承されてきた「伝統的な舞の文化」を後世に引き継ぐとともに、石見神楽団体（舞、舞い手、楽人）の保存・伝承に向けて、行政と石見神楽団体が中心となり取組を推進する必要があります。

#### **2 石見神楽関連産業、ものづくり技術の保存・継承について**

石見神楽関連産業やものづくり技術の保存・継承のために、行政による伝統工芸品や技術の保護が必要です。また、石見神楽関連産業の維持・発展に向けた取組を検討する必要があります。

#### **3 「石見神楽を創り出したまち浜田」としての情報発信について**

「石見神楽を創り出したまち浜田」という言葉が市民に十分理解され浸透するとともに、浜田の子どもたちがふるさとを象徴するものとして石見神楽を挙げ、誇りをもって説明できるようになるための市民向けの情報発信が必要です。それがひいては、石見神楽を目的とした浜田市への観光客に向けた情報発信にもつながります。

#### **4 行政における調査研究について**

行政が中心となり、石見神楽団体、石見神楽関連産業従事者、有識者などと協力しながら調査研究を行い、「石見神楽を創り出したまち浜田」としての価値や魅力を更に明確なものとしていく必要があります。

#### **5 石見神楽の保存・伝承を担う拠点施設について**

石見神楽の保存・伝承のために、歴史的な石見神楽用具や関係資料などの保存・展示や石見神楽について学ぶことができ、そこに行けば浜田の石見神楽が全てわかる拠点施設の検討が必要です。また、この拠点施設が核となり、市内各地に点在する石見神楽関連施設への案内機能も担うなど、「石見神楽を創り出したまち」としての中心的な役割を担うことが期待されます。

### (3) 本基本構想の位置づけ

本基本構想は、前項までに示した「石見神楽の保存・伝承に関する提言書」の実現に向けた具体化の方針を示すものとして策定するものです。

令和7年度に浜田市に設置された石見神楽保存・伝承拠点基本構想検討委員会（以下「検討委員会」といいます。）における議論に基づき、石見神楽を将来にわたって継承していくための拠点のあるべき姿を「石見神楽保存・伝承拠点基本構想（案）」として整理しました。

## 2. 保存・伝承拠点のあり方

### (1) 保存・伝承拠点のミッション（使命・意義）

本拠点は、石見神楽の保存・伝承を未来へとつないでいくため、以下の7つのミッション（使命・意義）を掲げ、その役割を果たしていきます。

#### ① 後継者の育成・確保

石見神楽の舞い手や楽人、そして神楽面・衣裳・蛇胴などのものづくりを支える職人まで、将来の石見神楽を担う多様な後継者の育成につなげます。

#### ② 舞（保持演目）や文化の伝承

浜田市内の神楽団体が保持する様々な演目が将来にわたって継承される環境を整えるとともに、石見神楽文化を後世に正確に伝承していく役割を担います。

#### ③ 市民の誇りの醸成

市民一人ひとりが「石見神楽を創り出したまち浜田」の歴史と文化を正しく理解し、地域への愛着と誇りを深めるきっかけを創出します。

#### ④ 情報のハブ

石見神楽に関するあらゆる情報や人が集まり、交流する中心的な拠点となります。ここから市内外へと情報が効果的に広がっていくハブとしての機能を目指すとともに、各地の石見神楽の関連スポットの紹介、石見神楽公演や関連イベントへの案内も行います。

#### ⑤ 魅力の発信

より多くの市民、そして市外からの来訪者に向けて、石見神楽の持つ奥深い魅力を効果的に発信し、その文化的価値を広く伝えていきます。

## ⑥ 用具や資料の保存・収蔵

市内各地に点在する貴重な石見神楽用具や歴史的な資料を収集・保存し、それらの散逸を防ぐことで、後世への継承を図ります。

## ⑦ 調査・研究

石見神楽に関する学術的な調査・研究を推進し、その歴史的・文化的価値を明確化することで、保存・伝承活動の深化・充実に貢献します。

## (2) 保存・伝承拠点のビジョン・コンセプト（目指す姿）

### ―石見神楽のすべてがわかる、浜田市民が誇れる拠点―

この拠点の目的は、浜田の宝である石見神楽を「守り」「伝え」「未来へつなぐ」ことにあります。

具体的には、「伝統的な石見神楽の舞の文化」や石見神楽団体、石見神楽関連産業、ものづくり技術を後世に伝承することを目的に、市民一人ひとりにとって身近で親しみやすい拠点を目指します。そして、地域の誇りとして、内外に自信を持って紹介できる拠点をつくりま

す。拠点の中心的な役割は、石見神楽の舞・楽人・用具などやそれらを構成する石見神楽文化の保存・伝承です。そのためには後継者の確保・育成が不可欠です。子どもや若者が憧れ、「かっこいい」と感じるような体験、学びの場を整え、石見神楽の舞や文化を継承する人材を地域全体で育てます。

そのため、学芸員等による調査・研究にも取り組み、文化としての厚みを蓄積し、それを基にした石見神楽を深く知ることができる体験・学習プログラムや展示等を通じて、市民が「石見神楽を創り出したまち浜田」を正しく理解し、誇りを持つきっかけを提供します。

さらに、市内の神楽団体、ものづくり職人、観光関係者、学校、行政などが連携し、情報や人のつながりが集まり・広がる「情報のハブ」としての機能を担います。石見神楽に関する最新情報や知見が行き交うことで、浜田市の地域振興を支えるエンジンとなります。

第一のターゲットは浜田市民です。市民自身が石見神楽を学び、楽しみ、日常的に関わることで、石見神楽に誇りを持つことができ、ひいてはそれが観光誘客にもつながります。文化振興と観光振興が一体となった「市民発の魅力発信」がここから始まります。

石見神楽文化の保存・伝承という目的を大切にしながらも、持続可能な収益性確保の仕組みも工夫していきます。

### (3) 保存・伝承拠点に必要な機能

ビジョン・コンセプト（目指す姿）を実現するために必要な機能として、以下の5つの機能に整理しています。

5つの機能を活用することにより、「伝統的な石見神楽の舞の文化」や石見神楽団体、石見神楽関連産業、ものづくり技術を後世に伝承することを目指します。

#### ① 収集・保存機能

石見神楽に関する資料、用具、記録などを体系的に収集し、後世に正しく伝えるために適切に保存・管理する機能です。

#### ② 調査・研究機能

石見神楽に関する専門的な知見を蓄積し、その成果を地域や社会に還元していく機能です。

#### ③ 展示機能

市民や来訪者が石見神楽の魅力と奥深さを多角的に理解できるように表現・公開する機能です。

#### ④ 教育・普及機能

市民の理解と誇りを育み、次世代への伝承につなげる機能です。

#### ⑤ 交流機能

人と人、人と文化をつなぎ、石見神楽を通じた地域内外のネットワークを築く機能です。

## (4) 各機能の活用

前述の5つの機能別に、保存・伝承の具体化に向けた方針（目標、取組方針、実現手法）を以下に示します。

### ① 収集・保存機能の活用

#### 【目標】

石見神楽に関する貴重な用具や資料が散逸することを防ぎ、将来にわたって確実に保存することを目指します。

#### 【取組方針】

本拠点で保存すべき資料を専門的な視点から選定し、適切な環境で保存・管理を行います。衣裳・面・蛇胴といった石見神楽用具はもちろん、歴史的な資料、写真、映像、音声なども幅広く収集の対象とします。これらの資料については、デジタル化も推進し、劣化を防ぎつつ活用しやすい形で保存します。

また、各神楽団体が保持する演目や地域ごとの特色、演者の貴重な証言などを体系的にアーカイブ化し、誰もがいつでもアクセスできる情報基盤を構築します。

収集・保存された用具については、バックヤードツアーなどを企画・実施し、来訪者が見学できる機会を設けることも検討します。

#### 【実現手法】

##### （１）資料などの情報収集

まず、市内に存在する保存すべき用具や資料（写真、映像などを含む）の現状を網羅的に調査し、全体像を把握します。その上で、各神楽団体からの情報提供や、個人・団体・企業が保有する関連資料の情報を集約し、整理していきます。

##### （２）適切な収蔵環境の確保

将来的な資料の増加を見越し、十分なスペースを持つ収蔵庫を確保します。収蔵庫内は、資料の劣化を防ぐために温度・湿度を適切に管理できる環境を整備します。また、収蔵品をただ保管するだけでなく、来訪者への公開も前提とした収蔵形態を計画します。情報収集の結果を踏まえ、拠点で保存すべき資料を整理・選定した上で、最適な収蔵庫の規模や形態を決定します。

## ② 調査・研究機能の活用

### 【目標】

石見神楽の歴史や関連用具に関する調査・研究を推進し、その文化的価値を明らかにすることを目指します。

### 【取組方針】

石見神楽の専門的な知識を持つ職員（以下「専門職員」といいます。）や学芸員が中心となり、石見神楽の歴史的背景、演目構成、地域ごとの特色、そして石見神楽用具の製作技術や素材に至るまで、継続的な調査・研究を実施します。これにより、古い用具などが持つ歴史的・美術的価値を明らかにします。

また、大学や外部の研究機関とも積極的に連携し、多角的な視点から研究を深めます。研究で得られた成果は、神楽関係者はもちろん、広く市民や観光客に向けて情報発信していきます。

さらに、全国の神楽との比較研究を通じて、石見神楽の独自性や文化的な位置づけを整理し、その価値をより明確に伝えていきます。

### 【実現手法】

#### （１）専門人材の確保

専門職員や同等の研究意欲のある職員、学芸員を配置します。また、学生の地域研究活動などとも連携・協働し、次代の研究人材の確保・育成にもつなげます。

#### （２）石見神楽及び関連産業の価値の明確化

調査研究を通じて、石見神楽を支えるものづくり（神楽面、衣裳、蛇胴など）の独創性や価値を明らかにします。全国の神楽と比較することで、石見神楽の際立った特徴を客観的に整理・発信します。

#### （３）外部団体との連携による研究

島根県立大学などの大学や、郷土の歴史・文化を研究する機関と連携し、共同研究を推進します。研究内容を共有・体系化し、将来的な文化財指定なども視野に入れた文化的価値の明確化を目指します。

#### （４）研究成果の公表

調査研究の成果は、拠点施設での企画展示やトピック展示、講演会、ワークショップなどを通じて、広く一般に公表し、知識の普及を図ります。

### （５）調査・研究環境の確保

収集した情報や収蔵資料を有効に活用し、専門職員や学芸員が継続して調査・研究に取り組める環境を確保します。神楽に関する図書資料を閲覧できるスペースや、資料を撮影できる場所など、研究に必要な物理的な環境も整備します。

## ③ 展示機能の活用

### 【目標】

石見神楽のすべてがわかる拠点として、「石見神楽を創り出したまち浜田」への市民の理解を深め、誇りへとつなげることを目指します。

### 【取組方針】

常設展示と企画展示を効果的に組み合わせ、来訪者が何度訪れても新たな発見がある展示構成とします。解説には多言語対応や子ども向けの視点を取り入れ、幅広い層が楽しめるよう配慮します。また、実物資料の持つ迫力と、デジタル技術を活用した分かりやすい解説を融合させ、来訪者の効果的な理解を促します。

展示は、舞や奏楽だけでなく、それを支える「ものづくり」にも焦点を当てます。見るだけでなく、触れたり聴いたりといった多様な感覚で、臨場感あふれる体験を提供します。

### 【展示コンセプト】

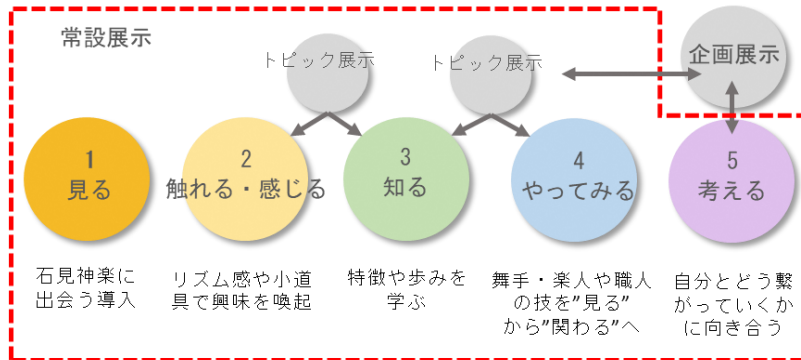
#### 「受け手からつなぎ手へ—石見神楽を未来へ継ぐ拠点」

本拠点のビジョン・コンセプトに掲げる「石見神楽を『守り』『伝え』『未来につなぐ』」を実現するため、展示機能では、来館者が単なる「受け手」として楽しむだけでなく、体験を通して石見神楽への興味を深め、自らが担い手や支え手、すなわち「石見神楽をつなぐ人々」になりたいと思えるような体験を創出します。

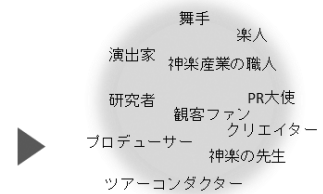
展示内容は、小学校高学年程度が理解できる表現を基本とし、多言語対応や視聴覚に障がいのある方への配慮も行います。

## 【展示ストーリーと構成】

石見神楽に詳しい方から初めて触れる方まで、誰もが石見神楽を学び、自分ごととして捉えるまでの過程を、以下の5つのフェーズを通して体験できる構成とします。



### 石見神楽をつなぐ人たち



来館者が、石見神楽の舞手や担い手、石見神楽に関係する人や石見神楽を市内外から支える人などになることを目指す

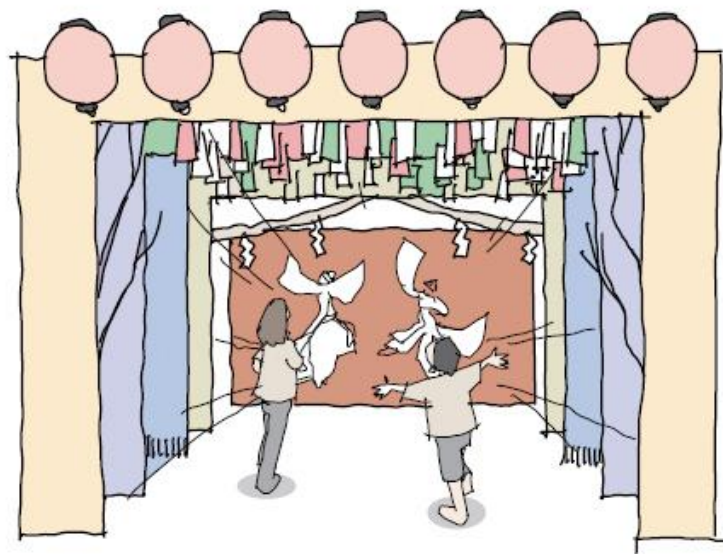
## フェーズ1:見る

### 【コンセプト・ポイント】非日常への入口、石見神楽との出会い

囃子の響き、舞う人の姿、観客の熱気、職人の手仕事など、石見神楽を象徴する要素を断片的に切り取り、神聖かつ熱量のある「カッコいい石見神楽」を印象付けます。シンボルとなる貴重な神楽面の展示や、迫力ある映像などで来訪者を石見神楽の世界へ引き込みます。

### 【具体例】

- 貴重な神楽面を重厚な展示空間に配置したシンボル展示（象徴的な演出）
- 神楽を舞う人の暖簾やゲート
- 神楽の印象映像を投影するミニシアター、大型映像装置など



舞台演幕ゲート、奥に大型ビジョン  
横に神楽面等のシンボル展示など

## フェーズ2:触れる・感じる

### 【コンセプト・ポイント】多様な感覚を刺激し、受け手と作り手の境界を越える

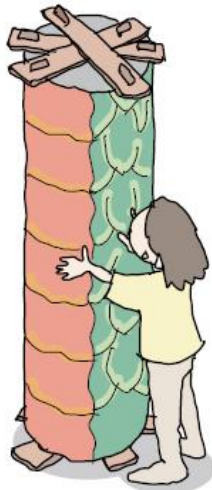
石見神楽用具（面、衣裳、蛇胴など）を間近で見たり、実際に触れたりすることで、その質感や重さを体感します。また、製作に使われる石州和紙などの素材に触れることを通じて、作り手の存在や技術の工夫に気づくきっかけを作ります。

### 【具体例】

- 衣裳の生地や刺繍に触れる展示
- 口上や楽器の音が聞ける展示
- 石州和紙に触れる展示
- 神楽面に触って重さや質感を感じる展示



口上や楽器の音を聞く



石州和紙に触れる



神楽面に触る

### フェーズ3:知る

【コンセプト・ポイント】石見神楽が伝承・拡散して行った背景や多くの人の手によって支えられていることを理解する

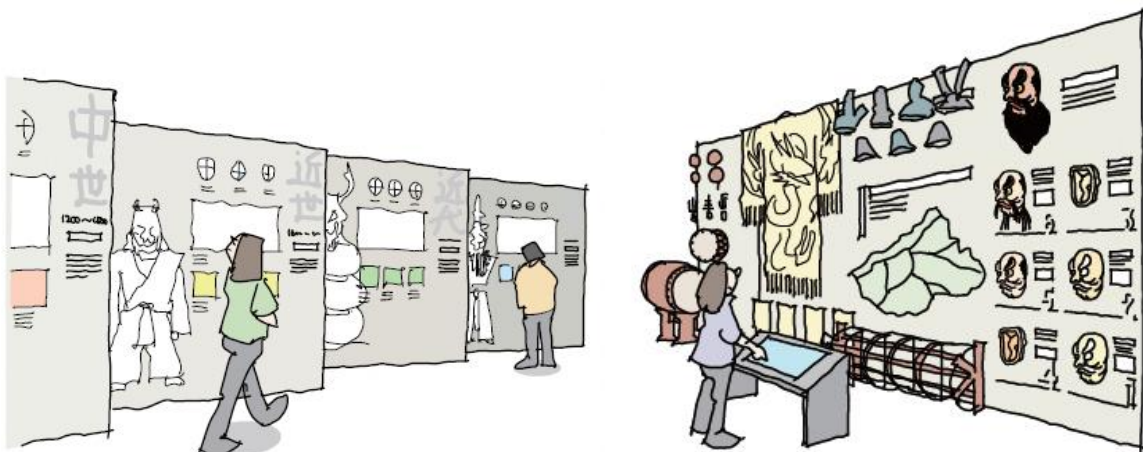
石見神楽の成り立ちや特徴、六調子と八調子の違い、演目の多様性、演出の柔軟性、神楽産業の存在など、その全体像を分かりやすく紹介します。神楽団体やものづくり技術の歴史を学ぶことで、「石見神楽を創り出したまち浜田」への理解を深めます。

#### 【具体例】

- ・ 石見神楽の成り立ちや特徴などを知る映像や実物展示を一望できる歴史の展示
- ・ 演目の説明や各種神楽団体を解説したアーカイブ（記録保存と閲覧機能）
- ・ 奉納神楽などの鑑賞の作法など石見神楽文化の紹介
- ・ 各種の神楽用具が一面に展示されている「神楽用具ウォール」
- ・ 製作過程の分解展示、製作道具の展示、製作風景の保存や閲覧など
- ・ 神楽産業のトピック展示（技術を活用した商品などの展示、企画展示などとの連携）



多彩な演目や社中の紹介



石見神楽の歴史を辿る

神楽産業の紹介

## フェーズ4:やってみる

### 【コンセプト・ポイント】「見る」から「関わる」へ。「もっとやってみたい」への第一歩

囃子を奏でてみる、舞ってみる、衣裳を着てみるといった、演じることの疑似体験を提供します。ゲーム感覚で楽しめる体験コンテンツを通じて、「もっとやってみたい」という気持ちを引き出し、石見神楽への関心をさらに高めます。

なお、このフェーズは一連の学びの空間とは隔離し、「知るフェーズ」の妨げにならないような空間構成を検討します。

### 【具体例】

- お囃子を奏でるゲーム（太鼓の達人など）
- 舞が体験できるゲーム
- 蛇胴にくるまる体験（企画展示などと連携）



小太鼓をたたく



舞ってみる



衣裳を着てみる



蛇胴にくるまる

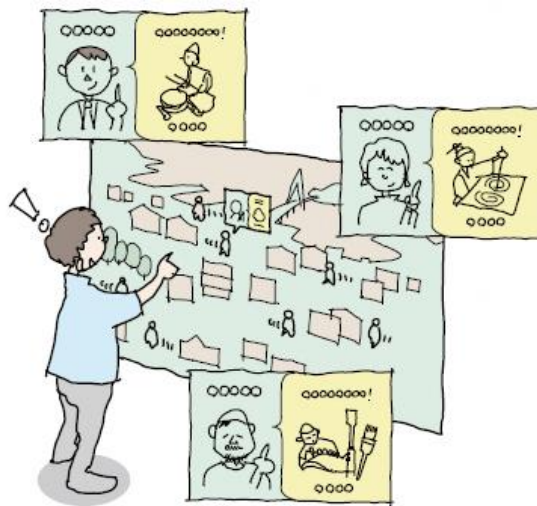
## フェーズ5:考える

### 【コンセプト・ポイント】自分と石見神楽のつながりを見つける、向き合う

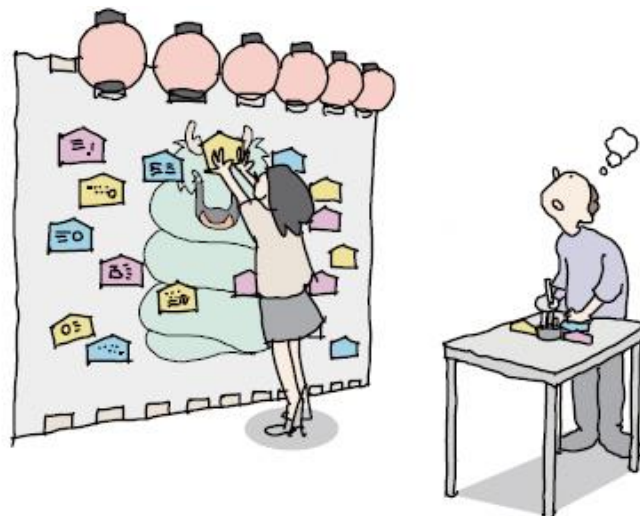
舞手、楽人、ものづくり職人、そして地域住民など、様々な立場で石見神楽に関わる人々の姿を紹介します。鑑賞やメッセージを送るといった応援の仕掛けもつくり、来訪者自身が「自分は石見神楽にどう関わっていくことができるか」を考えるきっかけを提供します。

### 【具体例】

- ・ 私にとっての石見神楽とは？人が語るサイネージ
- ・ 「石見神楽のこれから」（リアルな現状と課題）をテーマにしたエピローグ展示
- ・ 石見神楽がこうなってほしい、こう関わりたいという宣言・応援メッセージボード（絵馬など）：成果検証（来訪者からのフィードバックとして今後に活かす）



神楽に関わる人々からのメッセージ



宣言・応援メッセージ

#### ④ 教育・普及機能の活用

##### 【目標】

学校のふるさと郷育などで積極的に活用されるとともに、市民が繰り返し訪れることで、石見神楽に関わる人々の裾野を広げていくことを目指します。

##### 【取組方針】

子どもや若者が石見神楽に親しむためのワークショップや体験教室を定期的に開催し、「演じる・作る・知る」といった多様な機会を提供します。学校教育との連携を深め、ふるさと郷育の教材として石見神楽を活用する際のサポートも行います。

また、子どもだけでなく大人を対象とした解説講座や神楽団体の公開練習などを企画し、世代を超えた普及活動を展開します。

SNS や各種メディアも活用し、石見神楽の持つ「かっこよさ」や物語性を発信することで、特に若年層の関心を喚起します。

さらに、市内に点在する石見神楽に関するあらゆる情報を集約・発信するハブとしての役割を担います。

##### 【実現手法】

###### （１）子どもから大人までを対象とした体系的な学びの提供

ふるさと郷育の一環として、専門職員や学芸員による出前授業や本拠点への来館プログラムを実施します。初心者向けから、より専門的な内容を扱う講座、さらには将来の担い手を養成するコースまで、市民の多様な関心レベルに対応した体系的な学習プログラムを構築します。親子で参加できるワークショップも開催し、世代を超えて楽しめる機会を提供します。

###### （２）市民との連携・協働による普及活動

専門職員や学芸員を配置するとともに、意欲ある市民を「市民ガイド」として養成します。市民ガイドや既存の活動団体と連携し、定期公演や奉納神楽での解説、各種ワークショップのサポートなど、協働による普及活動を推進します。

###### （３）戦略的な情報発信

市内に点在する神楽団体、関連産業、ゆかりの地などの情報を一元的に集約し、効果的に発信するシステムを構築します。ウェブサイトや SNS、メディアへの情報提供を充実させ、拠点施設だけでなく市内各地へ人々が足を運ぶきっかけを創出します。また、石見神楽の魅力を活かした関連商品を扱うミュージアムショップを設置し、文化の裾野を広げます。

## ⑤ 交流機能の活用

### 【目標】

多くの市民、そして市外の方々に石見神楽の真の魅力を知ってもらい、新たな交流を生み出すことを目指します。

### 【取組方針】

地元の神楽団体同士の交流や合同公演、体験イベントなどを通じて相互理解を深めます。また、舞殿や工房といったスペースを設け、来訪者と演者・職人が日常的に出会い、交流できる機会を創出します。

拠点自体が石見神楽に関する情報のハブとして機能し、各地の活動や知見が集まり、共有・発信される場となることを目指します。さらに、他地域の伝統芸能や異分野のアーティストとのコラボレーションなど、新たな担い手が創造的に関われるフィールドを提供し、石見神楽を核とした賑わいと新たな挑戦を生み出します。

これらの活動を通じて、石見神楽の技術や資源を活用したビジネス化・観光化を図り、地域経済の活性化にも寄与します。

### 【実現手法】

この機能を実現するため、交流の核となる以下の施設を整備します。

#### （１）舞殿の整備

本物の石見神楽が持つ迫力と魅力を最大限に伝えるため、演者にとっても「憧れの舞台」となるような質の高い舞殿を整備します。ここは、観光客向けの定期公演の場であると同時に、各団体がそのこだわりを存分に表現できる文化伝承の空間、そして他分野の芸能とのコラボレーションが可能な創造の場としての役割も担います。

舞殿は、劇場型ではなく、神社で鑑賞するような、演者と観客が一体となれる伝統的な空間（桟敷席など）を目指します。一方で、音響や照明などの舞台装置も充実させ、多様な演出による新たな挑戦にも対応できる環境を確保します。さらに、イヤホンガイドなどを導入し、初心者でも解説を聞きながら楽しめる仕組みや、多言語対応も検討します。



飲食しながらの鑑賞



イヤホンガイド

## **（２）多目的室の整備**

各種の会議や講座、体験イベント、ワークショップなどを開催できる柔軟な多目的室を整備し、市民や団体、異分野の人々が気軽に集い、交流できる場を提供します。

### 3. 拠点施設の構成及び管理運営方針

#### (1) 施設ゾーニング

本拠点施設は、収集・保存から調査研究、展示、教育・普及、交流といった多岐にわたる機能を効果的に発揮するため、以下の9つのゾーンで構成します。

##### ① 収蔵ゾーン

石見神楽に関する貴重な衣裳、面、蛇胴、古文書、映像資料などを、適切な温湿度管理のもとで安全に保管するゾーンです。資料の散逸を防ぎ、後世へと確実に継承するための中核を担います。

##### ② 調査研究ゾーン

学芸員や研究者が、収蔵資料や文献を用いて石見神楽の歴史的・文化的価値を深く探求するための専門的な空間です。資料の撮影や分析を行うための設備も備えます。

##### ③ 常設展示ゾーン

石見神楽の歴史や特徴、ものづくりの技術など、その全体像を「見る・触れる・知る・やってみる・考える」という5つの体験フェーズを通して、誰もが楽しく学べるゾーンです。実物資料とデジタルコンテンツを融合させ、石見神楽の魅力を伝えます。

##### ④ 企画展示ゾーン

常設展示とは異なるテーマや新たな切り口で、石見神楽や浜田の文化の多様な魅力を発信する柔軟な空間です。外部のアーティストとの連携など、挑戦的な企画も展開します。

##### ⑤ 情報発信ゾーン（ショップ等）

拠点内のイベントだけでなく、市内の神楽公演や関連情報を一元的に発信するハブ機能を持つゾーンです。石見神楽の魅力を活かした商品を扱うミュージアムショップを併設し、文化の裾野を広げます。

## ⑥ 舞殿ゾーン

演者と観客が一体となれる伝統的な雰囲気と、多様な演出を可能にする現代的な舞台設備を両立させた、本拠点の象徴となる空間です。定期公演や団体間の交流公演、異分野とのコラボレーションなど、様々な活動の中心となります。

## ⑦ 多目的室ゾーン（学習・体験等）

市民や子どもたちを対象とした各種講座やワークショップ、講演会などを開催するための多目的な空間です。石見神楽の舞や奏楽、ものづくりなどの体験活動の場としても活用します。

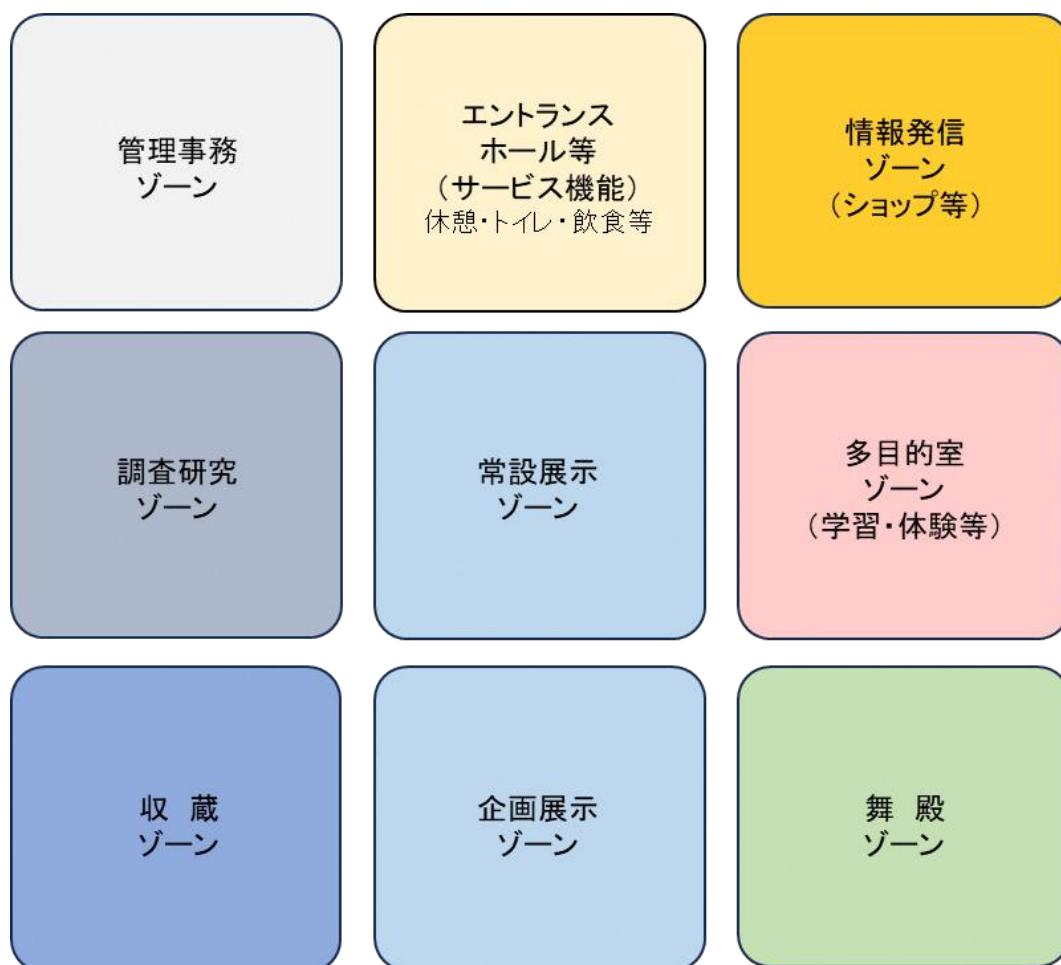
## ⑧ エントランスホール等（サービス機能）

来訪者を迎え入れ、施設全体へと誘う開放的な空間です。総合案内、休憩スペース、トイレ、軽飲食の提供など、誰もが快適に過ごすためのサービス機能を集約します。

## ⑨ 管理事務ゾーン

施設の管理運営を担うスタッフや学芸員が業務を行うための事務室や会議室などを配置するゾーンです。施設全体の円滑な運営を支えます。

機能ゾーニング図



## (2) 管理運営の基本方針

本拠点施設の管理運営にあたっては、石見神楽の保存・伝承の根幹である「後継者育成」や「市民の誇りの醸成」を最重要視しつつ、観光振興や地域経済の活性化といった側面も考慮した、持続可能な運営を目指します。

## (3) 運営方式

施設の公共性を維持しながら、民間事業者の持つノウハウや活力を最大限に活用するため、「官民共同型」による運営を基本とします。

施設は浜田市が所有し、その運営を指定管理者制度や業務委託、あるいは複数の団体で構成するコンソーシアム（共同事業体）形式など、官民が連携して行う方式を検討します。

これにより、民間の自由な発想による誘客イベントの企画や自主事業の展開を促進し、収益性を確保すると同時に、行政が担うべき調査・研究などの公的な役割も着実に果たしていきます。

※主要施設等は行政が保有した上で、官民共同型により運営する手法の例

- NPO や一般社団法人が運営
  - ・ 指定管理型や業務委託型
  - ・ 民間に一定の裁量と収益性を持たせつつ、公共性も維持
- 第三セクターや合同会社の設立
  - ・ 行政出資＋地域プレイヤー出資で新組織を設立
  - ・ 公私の中間的な立場で資金調達や人材集めがしやすい
- 地元民間企業・職人・地域団体によるコンソーシアムの設立
  - ・ それぞれの専門性を持ち寄る形
  - ・ クラウドファンディングや地域商社的な手法も取り入れやすい、部分的に民間所有も検討

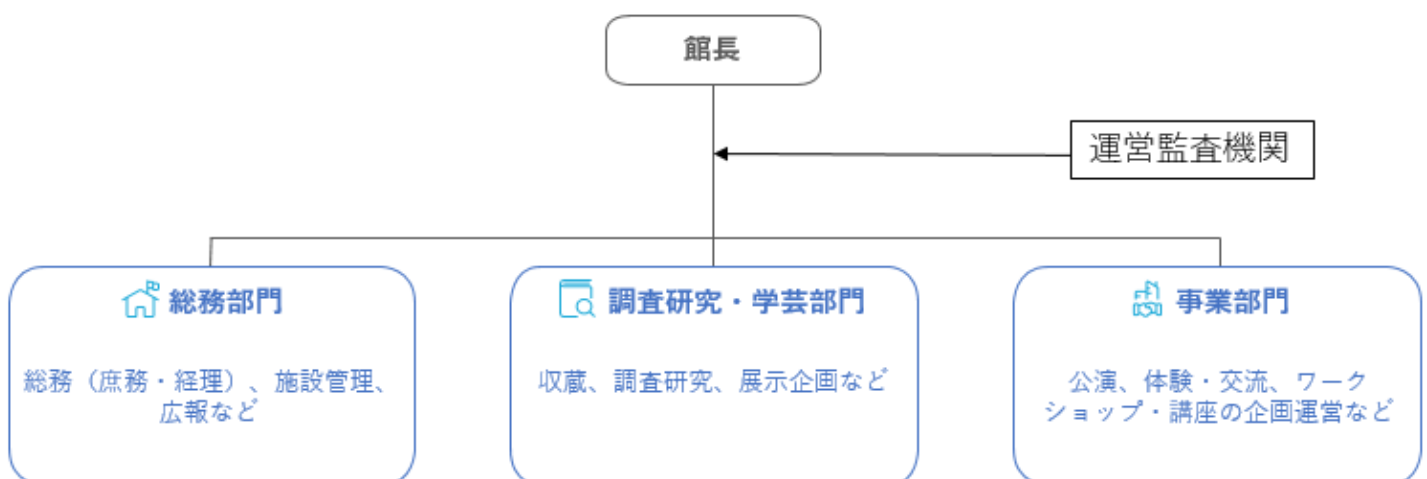
#### (4) 運営体制

運営体制は、施設全体を統括する館長のもと、「総務部門」「調査研究・学芸部門」「事業部門」の3部門を置くことを想定します。

本拠点が持つべき5つの機能（①収集・保存機能、②調査研究機能、③展示機能（体験・学習）、④教育・普及機能、⑤交流機能）を効果的に発揮するため、浜田市だけでなく、浜田市観光協会、各神楽団体、産業関係者といった外部の団体・個人と緊密に連携・協力する体制を構築します。

さらに、運営状況を客観的に評価・検証するための第三者機関を設置し、透明性の高い運営を目指します。

運営体制のイメージ



## 4. 今後の展望

### (1) 周辺施設との連携（フィールドミュージアム構想）

検討委員会では、石見神楽に関する資料・情報などは、これまで伝承してきた地域で保存・伝承していくものと拠点施設で保存・伝承していくものを整理した上で、市内に散在する石見神楽に関連する施設や資源と連携するシステムの構築が必要とする意見を頂いております。

拠点施設のみに人が集まって終わりではなく、それらの人々が各地域の施設や資源へと拡散していく仕組みを構築します。従って、各地域の施設などとの連携体制づくりやハード・ソフト対策（統一的な案内サイン、オブジェ、キャラクター等）を講じて、市全体で「石見神楽を創り出したまち浜田」を体感できる地域づくりを図る必要があると考えています。